

令和3年度羽曳野市事務事業評価シート(令和2年度実施事業)

				事務事業コード		431-02-01	
事務事業名		青少年児童センター運営事務事業		事務の種類		自治事務(任意のもの)	
				連絡先		072-952-0032	
担当部署名		青少年児童センター		予算科目	会計	1	一般会計
総合基本計画	施策目標	4	未来に羽ばたく 子ども・若者を育むまち		款	10	教育費
	施策	3	子ども・若者育成支援		項	5	社会教育費
	施策の方向	1	健やかな成長支援		目	8	青少年児童センター運営費
事業の概要	対象 (誰を・何を)	幼児から成人の方まで幅広い年代を対象。					
	目的 (どうしたいか)	青少年の放課後や土曜日・夏休み期間等の安心・安全な居場所づくりの実施。 ＊ 小学生を中心に各種教室を実施し様々な知識・技術等を習得、体験し生涯学習への関心を高める。 ＊ 体育館・運動広場・教室等の施設を貸し出すことにより自主活動の場を提供する。					
	手段 (事業内容)	日～土(年末・年始除く)の午前9時から午後9時30分まで開館。 ＊土曜日教室(文化、サッカー、おもしろ)・子育て支援(親子、小学生体操教室)・中学生学力向上教室・夏休みを中心としたこども教室の実施。館内の教室、体育館、運動広場等の施設貸出(無料)					

予算・決算額		(単位:千円)			※主な内訳(令和2年度決算)※
		令和元年度	令和2年度	令和3年度	【事業費】 報償費(講師謝礼等) 1,097千円 需用費(教材費等) 991千円 委託料(シルバー講師派遣) 199千円 【特定財源】 使用料及び手数料 (文化教室等受講料) 247千円
当初予算額	事業費	4,857	3,160	3,006	
決算額	事業費	2,581	2,305	－	
	特定財源等	200	247	－	

活動指標		(事務事業の目的を達成するために、何をどれだけ行ったか)		
指標名	施設利用件数	単位	件	
指標の説明	1年間で、当センターを利用した件数 (団体への施設貸出延べ件数＋文化教室等の主催事業件数)			
		令和元年度	令和2年度	令和3年度
目標(見込)		2,000	1,800	1,500
実績		1,812	1,445	－

成果指標		(事務事業を実施したことにより、目的がどの程度達成されたか)		
指標名	施設利用者数	単位	人	
指標の説明	1年間で、一般開放利用等も含め当センターを利用した人数			
		令和元年度	令和2年度	令和3年度
目標(見込)		50,000	45,000	30,000
実績		43,560	27,931	－

個別評価			
妥当性	本事業を市が行うのは妥当か。	妥当である。	B
	対象範囲や水準、手段は妥当か。	概ね妥当であるが見直しの余地がある。	
	事業を廃止・休止した場合の影響は大きいのか。	影響がある。	
有効性	目的に対する成果は上がっているか。成果向上の余地はあるか。	一定の成果は上がっているが向上余地がある。	B
	類似事業との統廃合はできるか。	統廃合はできない。/類似事業はない。	
	事業の上位目標である施策に貢献しているか。	大きく貢献している。	
効率性	事業費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。	A
	人件費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。	
	受益者負担の割合は適正か。	適正な受益者負担である。	

総合評価	現状維持
(担当部局による総合評価の理由や課題) 青少年児童が安全かつ安心して過ごせる場を提供するよう努め、児童を対象とした各種文化教室・サッカー教室等を軸に様々な活動を通して「集い・遊び・学び」の機能を充実させることにより、青少年児童の健全育成に取り組んでいる。また、親子のふれあいの場として体操教室などを実施することで、子育て世代のコミュニケーションの促進にも取り組んでいる。	

今後の改善内容
(令和3年度以後の事業実施への改善内容) 一般開放及び貸館事業などにより、さらに幅広い年代の方々が利用し活動することができる「場」を継続して積極的に提供することで、世代間のコミュニケーションの促進にも努めていく。

令和3年度羽曳野市事務事業評価シート(令和2年度実施事業)

				事務事業コード		431-02-02	
事務事業名		青少年児童センター施設管理事務事業		事務の種類		自治事務(任意のもの)	
				連絡先		072-952-0032	
担当部署名		青少年児童センター		予算科目	会計	1	一般会計
総合基本計画	施策目標	4	未来に羽ばたく 子ども・若者を育むまち		款	10	教育費
	施策	3	子ども・若者育成支援		項	5	社会教育費
	施策の方向	1	健やかな成長支援		目	8	青少年児童センター運営費
事業の概要	対象 (誰を・何を)	青少年児童センターを利用される市内外の方々を対象とする。					
	目的 (どうしたいか)	「青少年児童センター運営事務事業」の遂行を補完するため、適切な施設・設備の維持管理を行い、利用者が安全に、安心して当施設を利用できるようにする。					
	手段 (事業内容)	来館者が青少年児童センターを安全で安心して利用できるよう、施設の維持管理に努め、可能な限り、補修・修繕については職員で行っている。 ＊ 必要に応じて、消防設備等の保守管理等に専門性の必要な業務や、施設警備・清掃業務等、委託により効率化が見込める業務等、適宜業者に委託している。					

予算・決算額		(単位:千円)			《主な内訳(令和2年度決算)》
		令和元年度	令和2年度	令和3年度	【事業費】 需用費(光熱水費) 1,681千円 役務費(電話料 他) 176 千円 委託料 (施設管理・清掃業務、 各種設備等保守管理業務、 機械警備業務 他) 8,564千円 工事請負費 3,133千円 負担金、補助及び交付金 3,038千円
当初予算額	事業費	11,022	18,910	14,618	
決算額	事業費	10,624	16,592	—	
	特定 財源等	0	0	—	

活動指標	(事務事業の目的を達成するために、何をどれだけ行ったか)		
指標名	修繕件数	単位	件
指標の説明	1年間で修繕を行った件数(職員作業も含む)		
		令和元年度	令和2年度
目標(見込)	30	30	30
実績	30	30	—

成果指標	(事務事業を実施したことにより、目的がどの程度達成されたか)		
指標名	事故等発生件数	単位	件
指標の説明	施設利用者の安全・安心につながっている。		
		令和元年度	令和2年度
目標(見込)	0	0	0
実績	0	0	—

《事業の参考数値等》
施設利用者数
R1 43,560人
R2 27,931人
R3 35,000人(見込み)

個別評価			
妥当性	本事業を市が行うのは妥当か。	妥当である。	
	対象範囲や水準、手段は妥当か。	妥当である。	
	事業を廃止・休止した場合の影響は大きいか。	影響は大きい。	
有効性	目的に対する成果は上がっているか。成果向上の余地はあるか。	一定の成果は上がっているが向上余地がある。	
	類似事業との統廃合はできるか。	統廃合はできない。/類似事業はない。	
	事業の上位目標である施策に貢献しているか。	貢献している。	
効率性	事業費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。	
	人件費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。	
	受益者負担の割合は適正か。	受益者負担を求める性質のものではない。	

総合評価	現状維持	今後の改善内容
(担当部局による総合評価の理由や課題) 日々点検を実施し、可能な限り修繕等を職員で行うことにより、支出の抑制に取り組みつつ、事故のない安全な施設となるよう、努めている。		(令和3年度以後の事業実施への改善内容) 需用費(光熱水費)や役務費(電話料)など、可能な限り節制に努め、より一層の支出の抑制に取り組み、適切な施設・設備の維持管理を行い、利用者が安全に、安心して当施設を利用できるように努めていく。